

モルタルプール 塗装仕様書 新設 プールコート マイルド

大同塗料株式会社

1. 塗装工程

工 程	品 名 (配合比)	希釈剤 希釈率(%)	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> 含水率は、デジタル式水分計による測定で5%以下。更にポリエチレンフィルムを床面に敷き、周囲をテープで密封して翌日(16時間後)開封する手順で行い、床面が黒っぽく濡れたりフィルムが結露していないことを塗装条件とします。 モルタル表面のレイトスはディスクサンダーやポリッシャーなどの動力工具を用いて除去し、掃除機清浄にします 					
下 塗	プールコート マイルド バリュープライマー (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.12~0.14	はけ ローラー	8時間以上 7日以内
中 塗	プールコート マイルド スペシャル (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.14~0.16	はけ ローラー	10時間以上 7日以内
上 塗	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	2	0.12~0.14	はけ ローラー	”
コースライン	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~10	1~2	0.12~0.14	はけ ローラー	—
塗装後注水までの最低養生日数		気温	10℃	10日		
		20℃	7日			
		30℃	5日			

※ 防滑(ノンスリップ)仕上げの場合は、中塗り又は上塗り1回目塗装後、直ちに6~7号珪砂を散布(0.1~0.2kg/m²)し、乾燥後余分の砂を除去してさらに上塗り(1~2回)を塗装します。

2. 注意事項(プール塗装の重要なポイントとなりますので、施工前に必ずお読み下さい)

- (1) 水分計は、(株)ケット科学研究所製造品を指しています。説明書に従って測定して下さい。下地の水分が多い場合は塗膜の膨れや剥離の原因となります。
- (2) レイタンスの除去不足はモルタル表面からの膨れや剥離の原因となりますので、ディスクサンダーやポリリッシャーなどで入念に除去して下さい。
- (3) 表面のジャンカや目違いの面修正は必ずダイドレージモル又はプールセメントWを使用して下さい。他のセメントフィラー(カチオンフィラー等)を使用しますと、剥離や膨れなど不具合の原因となります。
- (4) 表面が緻密で吸い込みのない面はダイヤモンドサンダー掛け、ブラスト処理又はユカクリートエッチング剤によるエッチング処理を行って下さい。エッチング処理した場合は十分な水洗が必要です。吸い込みのない面は付着性が悪くなりますので、吸い込みやすくなったかどうか水を落として確認して下さい。
- (5) 小さな破損部や凹部は下塗後、プールコートパテ速乾型N又はハイボンド#3000で処理して下さい。ポリエステルパテ(ポリパテ)等他のパテ材を使用しますと剥離しますので使わないで下さい。又プールコートパテ速乾型N及びハイボンド#3000に直接プールコートマイルドAUは付着しません。プールコートマイルドスペシャルを入れてからマイルドAUを塗装して下さい。
- (6) 塗装面に砂や異物を巻き込みますと突起となり、プール使用時に足の裏等を怪我する場合があります。砂や異物の巻き込みに注意し、最終塗装時には事前に全面をチェックして、サンドペーパーやスクレパーなどで突起物を除去してから丁寧に塗装して下さい。
- (7) 最終塗装の際、新しいローラーは使用しないで下さい。毛が抜けて突起の原因となります。止むを得ず新しいローラーを使用する場合は、事前にガムテープを使って抜けるだけの毛を抜き取ってから使用して下さい(毛の抜け難いローラーも市販されています)。
- (8) 各塗装前は結露や夜露、霜などにより表面が濡れていないかチェックし、濡れている時は十分乾燥させてから塗装を始めして下さい。又水分により塗膜が白化した場合は、シンナー拭きや研磨により白化部分を除去して下さい。
- (9) 屋内プールを塗装する場合は送風器を設置し、施工中・施工後にプール内の換気を十分に行って下さい。
- (10) 塗装後注水までの養生日数が不足しますと塗膜の膨れや剥離並びに早期チョーキングや退色の原因となりますので最低養生日数は厳守して下さい

3. 下記のような場合、塗装は原則として避けて下さい。

- (1) 気温5℃以下の時や、湿度が非常に高い時。
- (2) 降雪雨時、あるいは塗料の乾燥する前にその恐れのある時。
- (3) 強風下、塵埃の多い時。
- (4) 炎天下、素材表面の温度が高く、塗膜に泡を生ずる恐れのある時。

モルタルプール 塗装仕様書 塗替 プールコート マイルド

大同塗料株式会社

1. 塗装工程

工 程	品 名 (配合比)	希釈剤 希釈率(%)	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)
素地調整	・水洗後、旧塗膜のふくれや不安定な塗膜はディスクサンダーなどの動力工具を使用して入念に除去し、素地まで出します。同時に活膜部も全面もれなくディスクサンダーなどで粗面にします。シンナー拭きを行います。					
下 塗	プールコート マイルド バリュープライマー (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.12~0.14	はけ ローラー	8時間以上 7日以内
中 塗	プールコート マイルド スペシャル (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.14~0.16	はけ ローラー	10時間以上 7日以内
上 塗	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	2	0.12~0.14	はけ ローラー	〃
コースライン	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~10	1~2	0.12~0.14	はけ ローラー	—
塗装後注水までの最低養生日数		気温	10℃	10日		
		20℃	7日			
		30℃	5日			

※ 防滑(ノンスリップ)仕上げの場合は、中塗り又は上塗り1回目塗装後、直ちに6~7号珪砂を散布(0.1~0.2kg/m²)し、乾燥後余分の砂を除去してさらに上塗り(1~2回)を塗装します。

2. 注意事項

- (1) モルタル素地の強度が不足(シュミットハンマーN型 20N/mm²(200kgf/cm²)以下、またはスクレパーで簡単に削れる)している場合は、モルタル素地の脆弱層に起因する塗膜の膨れや剥離が発生します。モルタルは打直してから塗装して下さい。
- (2) 排水直後、藻、水垢、チョーキング粉などの汚れを入念に除去して下さい。藻や水垢、チョーキング粉を残しますとそこから膨れや剥離が発生します。プールコート清浄剤を塗付してから高圧水洗(10N/mm²(100kgf/cm²)程度)を行なうと比較的容易に除去できます。
- (3) モルタル素地に背面水が存在して(山の傾斜地や地下水位の高い場所など)、水分や水蒸気が出てくる場合は塗膜が膨れやすくなります。プールコートNSや樹脂モルタル工法をご検討下さい(弊社にご相談下さい)。
- (4) 旧塗膜(エポキシ樹脂・ウレタン樹脂)の劣化・膨れ・剥離が著しい場合は、全て除去して下さい。また旧塗膜がアクリル・塩化ビニル樹脂の場合も、全て塗膜を除去して下さい。但し、剥離剤を使用して除去した場合はそれが残ると密着不良の原因となります。水洗やケレンを入念に行い、完全に除去して下さい。また、水洗不要タイプの剥離剤は完全に除去しづらいため使用しないで下さい。
- (5) 活膜と共に旧塗膜の膨れの激しい場所がある場合は、その部分の旧塗膜を全て除去して下さい。表面をサンディングするだけでは膨れ部分のみ除去されてクレーター状の仕上りになったり、基本的に付着力の弱い塗膜を残す事になりますので、新たな膨れが発生します。
- (6) 旧塗膜を半分以上除去しなければならないようなプールは、旧塗膜を全て除去し施工システムRC-304に準じて下さい。
- (7) 旧塗膜の活膜表面はディスクサンダーにP40~80のペーパーを取り付けて、十分に目荒して下さい。また旧塗膜の活膜表面のシンナー拭きはウエス又はモップにマイルドシンナーを付け、塗膜を入念に拭き油汚れ(煤煙、人からの油など)を除去します。ウエス等が汚れたら直ちに交換して下さい。これらが不十分ですと密着不良による膨れや剥離の原因となります。
- (8) クラックやコーナーなどの水分が湧出してくる箇所は塗装しても付着しません。そこを少しハツリ、急結セメント等で完全に水を止めてから塗装して下さい。急結セメントでもなかなか止まらない場合はプールコート施工ガイドを参照して下さい。
- (9) クラックの処理は下記のようにして下さい。
 - ①1mm 未満の場合 下塗後、プールコートパテ速乾型N又はハイボンド#3000によるパテ付けを行います。
 - ②1mm 以上の場合 Uカット後、下塗し可とう性エポキシにて処理します。
 但し、クラックが動く場合は塗膜の割れの原因となる場合があります。
- (10) モルタルに浮きがある場合はハイボンド#100による樹脂注入又はアンカーピンニング注入を行ない、素地を補強して下さい。また、激しい浮きの場合はハツリ取り、フィールドGRC-Lやダイドーレジモルなどで面修正して下さい。
- (11) 目地部のシーリング材が劣化している場合は撤去し、十分乾燥させてからシリコン系で打直します。シリコン系は耐久性が一番ありますが、塗料は付着しませんので必ず後打ちして下さい。シーリング材を塗装する場合は変性シリコン系ですが、爪で押すと塗膜は割れます。
- (12) 下塗り塗料はフレーク顔料が入っていますので、表面が多少ざらざらした仕上りになります。ローラー塗りの場合はローラーネット等でよくしごきながら塗装し、缶の中も時々攪拌して下さい。
- (13) 小さな破損部や凹部は下塗後、プールコートパテ速乾型N又はハイボンド#3000で処理して下さい。ポリエステルパテ(ポリパテ)等他のパテ材を使用しますと剥離しますので使わないで下さい。又プールコートパテ速乾型N及びハイボンド#3000に直接プールコートマイルドAUは付着しません。プールコートマイルドスペシャルを入れてからマイルドAUを塗装して下さい。

- (14) 塗装面に砂や異物を巻き込みますと突起となり、プール使用時に足の裏等を怪我する場合があります。砂や異物の巻き込みに注意し、最終塗装時には事前に全面をチェックして、サンドペーパーやスクレパーなどで突起物を除去してから丁寧に塗装して下さい。
- (15) 最終塗装の際、新しいローラーは使用しないで下さい。毛が抜けて突起の原因となります。止むを得ず新しいローラーを使用する場合は、事前にガムテープを使って抜けるだけの毛を抜き取ってから使用して下さい(毛の抜け難いローラーも市販されています)。
- (16) 各塗装前は結露や夜露、霜などにより表面が濡れていないかチェックし、濡れている時は十分乾燥させてから塗装を始めて下さい。又水分により塗膜が白化した場合は、シンナー拭きや研磨により白化部分を除去して下さい。
- (17) 屋内プールを塗装する場合は送風器を設置し、施工中・施工後にプール内の換気を十分に行って下さい。
- (18) 塗装後注水までの養生日数が不足しますと、塗膜の膨れや剥離並びに早期チョーキングや退色の原因となりますので最低養生日数は厳守して下さい。

3. 下記のような場合、塗装は原則として避けて下さい。

- (1) 気温5℃以下の時や、湿度が非常に高い時。
- (2) 降雪雨時、あるいは塗料の乾燥する前にその恐れのある時。
- (3) 強風下、塵埃の多い時。
- (4) 炎天下、素材表面の温度が高く、塗膜に泡を生ずる恐れのある時。

モルタルプール 塗装仕様書 既存塗膜撤去 プールコート マイルド

大同塗料株式会社

1. 塗装工程

工 程	品 名 (配合比)	希釈剤 希釈率(%)	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)
素地調整	<ul style="list-style-type: none"> 旧塗膜をブラスト法、動力工具、剥離剤などを用いて全面除去します。除去後は高圧水洗により清浄にし、素地を十分に乾燥させます。 含水率は、デジタル式水分計による測定で5%以下。更にポリエチレンフィルムを床面に敷き、周囲をテープで密封して翌日(16時間後)開封する手順で行い、床面が黒っぽく濡れたりフィルムが結露していないことを塗装条件とします。 					
下 塗	プールコート マイルド バリュープライマー (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.12~0.14	はけ ローラー	8時間以上 7日以内
中 塗	プールコート マイルド スペシャル (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.14~0.16	はけ ローラー	10時間以上 7日以内
上 塗	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	2	0.12~0.14	はけ ローラー	〃
コースライン	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~10	1~2	0.12~0.14	はけ ローラー	—
塗装後注水までの最低養生日数		気温	10℃	10日		
			20℃	7日		
			30℃	5日		

※ 防滑(ノンスリップ)仕上げの場合は、中塗り又は上塗り1回目塗装後、直ちに6~7号珪砂を散布(0.1~0.2kg/m²)し、乾燥後余分の砂を除去してさらに上塗り(1~2回)を塗装します。

2. 注意事項(プール塗装の重要なポイントとなりますので、施工前に必ずお読み下さい)

- (1) モルタル素地の強度が不足(シュミットハンマーN型 20N/mm²(200kgf/cm²)以下、またはスクレパーで簡単に削れる)している場合は、モルタル素地の脆弱層に起因する塗膜の膨れや剥離が発生します。モルタルは打直してから塗装して下さい。
- (2) 水分計は、(株)ケット科学研究所製造品を指しています。説明書に従って測定して下さい。下地の水分が多い場合は塗膜の膨れや剥離の原因となります。
- (3) 排水直後、藻、水垢の汚れを入念に除去して下さい。藻や水垢を残しますとそこから膨れや剥離が発生します。プールコート清浄剤を塗付してから高圧水洗(10N/mm²(100kgf/cm²)程度)を行なうと比較的容易に除去できます。
- (4) モルタル素地に背面水が存在して(山の傾斜地や地下水位の高い場所など)、水分や水蒸気が出てくる場合は塗膜が膨れやすくなります。プールコートNSや樹脂モルタル工法をご検討下さい(弊社にご相談下さい)。
- (5) 旧塗膜を剥離剤で除去する場合はそれが残ると密着不良の原因になりますので、水洗やケレンを入念に行い、完全に除去して下さい。また、水洗不要タイプの剥離剤は完全に除去しづらいため使用しないで下さい。
- (6) クラックやコーナーなどの水分が湧出してくる箇所は塗装しても付着しません。そこを少しハツリ、急結セメント等で完全に水を止めてから塗装して下さい。急結セメントでもなかなか止まらない場合はプールコート施工ガイドを参照して下さい。
- (7) クラックの処理は下記のようにして下さい。
 - ①1mm未満の場合 下塗後、プールコートパテ速乾型N又はハイボンド#3000Iによるパテ付けを行います。
 - ②1mm以上の場合 Uカット後、下塗し可とう性エポキシにて処理します。
 但し、クラックが動く場合は塗膜の割れの原因となる場合があります。
- (8) 小さな破損部や凹部は下塗後、プールコートパテ速乾型N又はハイボンド#3000で処理して下さい。ポリエステルパテ(ポリパテ)等他のパテ材を使用しますと剥離しますので使わないで下さい。又プールコートパテ速乾型N及びハイボンド#3000Iに直接プールコートマイルドAUは付着しません。プールコートマイルドスペシャルを入れてからマイルドAUを塗装して下さい。
- (9) モルタルに浮きがある場合はハイボンド#100Iによる樹脂注入又はアンカーピンニング注入を行ない、素地を補強して下さい。また、激しい浮きの場合はハツリ取り、フィールドGRC-Lやダドレージモルなどで面修正して下さい。
- (10) 目地部のシーリング材が劣化している場合は撤去し、十分乾燥させてからシリコン系で打直します。シリコン系は耐久性が一番ありますが、塗料は付着しませんので必ず後打ちして下さい。シーリング材を塗装する場合は変性シリコン系ですが、爪で押すと塗膜は割れます。
- (11) 表面の凹凸が激しい場合は必ずプールセメントW又は下塗後ハイボンド#3000で不陸調整して下さい。他のセメントフィラー(カチオンフィラーなど)を使用しますと不具合の原因となります。プールセメントWを使用する場合、素地が乾燥していると樹脂分が吸い込まれて適切な塗膜が形成されません。事前に打ち水をして素地を濡らしてから施工して下さい。ハイボンド#3000で不陸調整を行う場合は下塗が硬化乾燥してから硅砂やタレ防止剤などを混合したしごき材を調合してコテしごきして下さい。しごき材の調合比:ハイボンド#3000/硅砂7~8号/タレ防止剤/ライニング用シンナー=10:0~5:0~0.8:0~0.4。調合比は目安です。しごきやすい材料になるよう調整して下さい。不陸調整後はいずれの場合も適切な塗膜養生期間を経てからサンディングによってバリや突起を除去して次工程に進んで下さい。
- (12) 塗装面に砂や異物を巻き込みますと突起となり、プール使用時に足の裏等を怪我する場合があります。砂や異物の巻き込みに注意し、最終塗装時には事前に全面をチェックして、サンドペーパーやスクレパーなどで突起物を除去してから丁寧に塗装して下さい。
- (13) 最終塗装の際、新しいローラーは使用しないで下さい。毛が抜けて突起の原因となります。止むを得ず新しいローラーを使用する場合は、事前にガムテープを使って抜けるだけの毛を抜き取ってから使用して下さい(毛の抜け難いローラーも

市販されています)。

- (14) 各塗装前は結露や夜露、霜などにより表面が濡れていないかチェックし、濡れている時は十分乾燥させてから塗装を始めて下さい。又水分により塗膜が白化した場合は、シンナー拭きや研磨により白化部分を除去して下さい。
- (15) 屋内プールを塗装する場合は送風器を設置し、施工中・施工後にプール内の換気を十分に行って下さい。
- (16) 塗装後注水までの養生日数が不足しますと塗膜の膨れや剥離並びに早期チョーキングや退色の原因となりますので最低養生日数は厳守して下さい。

3. 下記のような場合、塗装は原則として避けて下さい。

- (1) 気温5℃以下の時や、湿度が非常に高い時。
- (2) 降雪雨時、あるいは塗料の乾燥する前にその恐れのある時。
- (3) 強風下、塵埃の多い時。
- (4) 炎天下、素材表面の温度が高く、塗膜に泡を生ずる恐れのある時。

FRP製(工場生産)プール 塗装仕様書 塗替 プールコート マイルド

大同塗料株式会社

1. 塗装工程

工 程	品 名 (配合比)	希釈剤 希釈率(%)	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)
素地調整	・水洗後、全面ポリッシャーなどの動力工具を使用して艶がなくなるまで十分に研磨します。掃除機などで清浄にし、アセトンまたはプールコートマイルドシンナーで全面を拭きます。					
下 塗	プールコート マイルド バリュープライマー (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.12~0.14	はけ ローラー	8時間以上 7日以内
中 塗	プールコート マイルド スペシャル (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1	0.14~0.16	はけ ローラー	10時間以上 7日以内
上 塗	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	2	0.12~0.14	はけ ローラー	〃
コースライン	プールコート マイルドAU (主剤:硬化剤=4:1)	プールコート マイルドシンナー 5~15	1~2	0.12~0.14	はけ ローラー	〃
塗装後注水までの最低養生日数		気温 10℃	10日			
		20℃	7日			
		30℃	5日			

※ 防滑(ノンスリップ)仕上げの場合は、中塗り又は上塗り1回目塗装後、直ちに6~7号珪砂を散布(0.1~0.2kg/m²)し、乾燥後余分の砂を除去してさらに上塗り(1~2回)を塗装します。

2. 注意事項(プール塗装の重要なポイントとなりますので、施工前に必ずお読み下さい)

- (1) 排水直後、藻、水垢、チョーキング粉などの汚れを入念に除去して下さい。藻や水垢、チョーキング粉を残しますとそこから膨れや剥離が発生します。プールコート清浄剤を塗付してから高圧水洗(10N/mm²(100kgf/cm²)程度)を行なうと比較的容易に除去できます。
- (2) FRP表面に黒点が見られる場合は、コーティングのみでは再び黒点が出る恐れがあります。UP-214G、UP-214A(ライニング工法)に施工システムを変更すると防ぐことができます。
- (3) 素地表面はポリッシャーサンダーなどの動力工具にP80~120のペーパーを取り付けて光沢がなくなるまで十分に研磨し、研磨分は掃除機などで入念に除去して下さい。又シンナー拭きはウエス又はモップにアセトンもしくはマイルドシンナーを付け入念に行ってください。これらが不十分ですと密着不良による膨れや剥離の原因となります。
- (4) 目地部のシーリング材が劣化している場合は撤去し、十分乾燥させてからシリコン系又は可とう性エポキシで打直します。シリコン系は耐久性が一番ありますが、塗料は付着しませんので必ず後打ちして下さい。
- (5) 下塗り塗料はフレーク顔料が入っていますので、表面が多少ざらざらした仕上りになります。ローラー塗りの場合はローラーネット等でよくしごきながら塗装し、缶の中も時々攪拌して下さい。
- (6) 小さな破損部や凹部は下塗後、プールコートパテ速乾型Nで処理して下さい。ポリエステルパテ(ポリパテ)等他のパテ材を使用しますと剥離しますので使わないで下さい。
- (7) FRPのジョイント部など、劣化の激しい場所があればその部分をUP-211G、UP-211A(FREライニング工法)に準じて補強して下さい。
- (8) 塗装面に砂や異物を巻き込みますと突起となり、プール使用時に足の裏等を怪我する場合があります。砂や異物の巻き込みに注意し、最終塗装時には事前に全面をチェックして、サンドペーパーやスクレパーなどで突起物を除去してから丁寧に塗装して下さい。
- (9) 最終塗装の際、新しいローラーは使用しないで下さい。毛が抜けて突起の原因となります。止むを得ず新しいローラーを使用する場合は、事前にガムテープを使って抜けるだけの毛を抜き取ってから使用して下さい(毛の抜け難いローラーも市販されています)。
- (10) 各塗装前は結露や夜露、霜などにより表面が濡れていないかチェックし、濡れている時は十分乾燥させてから塗装を始めて下さい。又水分により塗膜が白化した場合は、シンナー拭きや研磨により白化部分を除去して下さい。
- (11) 屋内プールを塗装する場合は送風器を設置し、施工中・施工後にプール内の換気を十分に行ってください。
- (12) 塗装後注水までの養生日数が不足しますと、塗膜の膨れや剥離並びに早期チョーキングや退色の原因となりますので最低養生日数は厳守して下さい。
- (13) 現場施工のFRPライニングの場合は弊社にお問い合わせ下さい。

3. 下記のような場合、塗装は原則として避けて下さい。

- (1) 気温5℃以下の時や、湿度が非常に高い時。
- (2) 降雪雨時、あるいは塗料の乾燥する前にその恐れのある時。
- (3) 強風下、塵埃の多い時。
- (4) 炎天下、素材表面の温度が高く、塗膜に泡を生ずる恐れのある時。